

整形外科

【一般目標】

- 1) 医療者の一員として診療に従事することで、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を、自らの実践の中で学ぶ。
- 2) 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者およびその家族と良好な対人関係を築いて診療を進めることができるようになることを目指す。
- 3) 講義で学んだ知識を再確認し、また、講義では得られなかった、より実践的な知識を身につける。
- 4) 担当する患者の問題の理解に、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を応用でき、病因・病態の理解から診断・治療までの一連の流れを総合的に理解する科目横断的な知識の応用と、問題解決型の思考過程を身につけることを目指す。
- 5) 実際の医療に直接接するなかで、自分の将来の医師像を具体的に構築する。

【到達目標（行動目標）】

- 1) コミュニケーションを通じ、患者および家族と良好な人間関係を築くことができる。
- 2) 基本的な診療知識に基づき、患者および家族から診療に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる。
- 3) 身体診察を適切に実施し、所見を解析してその後の診療に必要な情報を収集できる。
- 4) 主要な症候を理解し、鑑別診断の原則に基づいて以後の診療の計画を立案することができる。
- 5) 整形外科領域で用いられる主要な検査について、概要、有用性、限界、危険性を説明し、結果を解釈できる。
- 6) 整形外科領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる。
- 7) 収集した情報を基に、POMR＜問題志向型診療記録＞を作成できる。
- 8) 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切な長さで提示することができる。
- 9) 診療に必要な知識・情報（MEDLINE やインターネット上で公開されている各種の診療ガイドライン等の電子化情報を含む）を、適切に検索・収集することができる。
- 10) 医療チームの構成や各構成員（医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。

J A広島総合病院

【注意事項】

- 1) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートを付け、靴を履くこと（サンダルは禁止）。
- 2) 患者さんや他の医療スタッフと接する際には大人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。特に、患者さんと接する際には、実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
- 3) 守秘義務、個人情報の管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護にも気を配ること。また、予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。
- 4) 手術室では清潔、不潔の区別に留意し、指導医の指示に従って行動すること。
- 5) 欠席、遅刻の場合は必ず指導医に届け出ること。

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行う。
- 2) 第1週の月曜日に指導医を割り当てるので、以後は実習期間中、常時指導医と行動を共にすること。指導医の受け持つ患者と一緒に診療し、主治医グループの1人として入院から退院までの医療に参加すること。手術日では指導医と共に手術室に入室し手術見学をすること。具体的にどのような診療行為を行うかは、逐一指導医の指示を仰ぐこと。
- 3) 病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。これは医師が実診療に使うカルテ（電子カルテ）とは別物であるが、主治医として実際に診療用のカルテを書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。
- 4) 月曜日、木曜日の整形外科総合回診の際には、患者の概要と現在の治療の進行状態を簡潔に提示すること。また、月曜日と木曜日のカンファレンスでは、指導医の指定した症例について主治医の代わりに症例提示を行うこと。そのために、既定の時間内で発表できるよう患者情報をまとめ、事前に準備しておくこと。

J A 広島総合病院

【当科の週間スケジュール】

時間	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
7:30	総合回診 カンファレンス				
8:30	指導医との打ち合わせ、病棟回診				
午前	外来	手術	手術/外来	外来	手術
午後	外来	手術	手術/検査	総合回診 カンファレンス	手術

【評価】

学生の評価は以下のように行う。

評 価 項 目	配 点
指導医による学生の行動内容の評価	30 点
回診での患者提示のでき具合	10 点
カンファレンスでのプレゼンテーション	10 点
学生用カルテの内容	10 点
ポートフォリオの内容	20 点
部長試問	20 点

【実習指導医】

田中 信弘 （整形外科主任部長）
 山田 清貴 （整形外科部長、脊椎・脊髄センター長）
 平松 武 （整形外科部長、脊椎・脊髄副センター長）
 橋本 貴士 （整形外科部長）
 丸山 俊明 （整形外科医師）
 福井 博喜 （整形外科医師）

【参考図書、文献】

- 1) 標準整形外科学 共著 第12版 医学書院
- 2) 図解四肢と脊椎の診かた Hoppenfeld 著 首藤貴翻訳 医歯薬出版株式会社
- 3) 整形外科医のための神経学図説 ― 脊髄・神経根障害のみかた、おぼえかた ―
Hoppenfeld 著 津山直一監訳 新装版 南江堂

J A広島総合病院

- 4) 診療ガイドライン（公益財団法人日本医療機能評価機構）
<http://minds.jcqhc.or.jp/n/>